

須坂学園構想基本方針（案）地域説明会 会議録

- 1 日 時：2025 年 8 月 8 日（金）19～21 時
- 2 対 象：第 6・7 ブロック
- 3 会 場：相森中学校視聴覚室
- 4 参加者：26 人
- 5 市教育委員会：
勝山教育長、中村教育次長、若林学校教育課長、安川係長、
後藤主任指導主事、北村指導主事、西原指導主事

◆参加者 ◇市教委

（1）通学と放課後児童クラブについて

◆参加者 A

- ・小学校も年々児童数が減っています。運動会を見ても、自分たちの時代とは人数が違う。やはり人数の中で生活することは大事だと思っています。計画自体には賛成で、どんどん進めていたきたいと思っています。
- ・ただ、学区が心配です。やはりスクールバスは必須だと思います。
- ・両親が共働きの子供たちにとっては放課後児童クラブも重要です。統合後の児童クラブをどこに設置するのか、学校か地域の公民館か、今後の検討が必要だと思います。
- ・通学距離についても心配です。中学生なら自転車で行けますが、小学生が歩くのは危険です。防犯や交通の点で不安が大きいです。通学の安全をどう確保するかが課題だと思います。

◇市教委

- ・スクールバスについてですが、距離が延びる場合は検討します。
- ・児童クラブですが、できるだけ地元に残して設置する方向です。ただ第三・第四学園は 10 年以上先の話になるので、その時の児童数を見ながら検討したいと考えています。
- ・通学路については地域の方のご意見もいただきながら決定します。危険箇所への対策も地域と連携して行います。

（2）学園形態と地域見守りにについて

◆参加者 B

- ・第一学園では 1～4 年生が高甫小、5～6 年生が別の校舎という形になるとのことですが、発達段階からして、1～4 年生だけで学校を運営していけるのか疑問に思っています。
- ・スクールバス通学になると、地域で子供を見守る姿がなくなってしまいます。地域のつながりを損なう恐れがあります。
- ・地域と学校との関わりを大事にしながら、性急にではなく、じっくり考えていくことも必要だ

と思います。子どもが楽しく元気に育つ地域になるような学園構想を作っていただきたいです。

◇市教委

- ・1～4年生だけの学校についてですが奈良県王寺町の事例では、4年生がしっかり成長し、下級生を支えているそうです。5～6年生と同じことはできませんが、十分に役割を果たしています。
- ・王寺南義務教育学校の校舎間が離れており、スクールバスがなく交流が難しいという課題があります。本市の場合はスクールバスを運行し、交流の機会を増やすことを考えています。
- ・地域の見守りについてですが、確かにスクールバス化で子どもの姿が見えにくくなる課題があります。地域のご意見を伺いながら、徒歩区間を設けるなどの工夫を検討します。
- ・運動会などについては、通学路や行事の運営も含めて基本方針決定後に地域と協議を重ねたいと考えています。

(3) 須坂らしさと地域連携の継承について

◆参加者 C

- ・豊丘地区は保育園と小学校の連携がとても良くできていて、他地域からも珍しいと言われるほどです。その関わりの良さを求めて、他地域から豊丘地区に移ってくる家庭もあると聞きます。そうした地域の良さを、学園構想によって急に失ってしまわないか心配しています。
- ・「須坂らしさ」というものを大事にしてほしいと思います。地域の特性や強みを活かした子育て・教育を続けられるようにしてほしいです。

◇市教委

- ・保幼小連携についてですが、隣接していることで日常的な交流がしやすいという利点はあります。しかし距離が離れていても、保育園と小学校の交流に取り組むことは可能であり、現在も交流を行っています。
- ・この学園構想によって須坂らしさが失われるのではなく、新しい学校づくりの中で須坂らしさをどう発揮するかが大事だと考えています。

(4) 地域に学校があることの意義について

◆参加者 E

- ・学園構想で地域から学校がなくなると、地域の衰退につながるのではないかと心配です。地域の拠点としての学校の価値をしっかりと考えていただきたいです。

◇市教委

- ・地域づくりは学校だけの問題ではなく、地域全体で考えていく必要があると認識しています。地域の皆さんと一緒に、これからの地域の在り方を考えていくことが大切だと思っています。

(5) 学園構想のスケジュールについて

◆参加者 F

- ・各地域の学校には 100 年以上の歴史があります。統合によってそれが失われることに不安があります。
- ・なぜ今年度中に方針を決めなければならないのか、という点です。もっと時間をかけて、町全体の意見を丁寧に聞くべきではないでしょうか。

◇市教委

- ・小学校では児童数が 50 人を切り、複式学級（1 人の先生が 2 学年を同時に教える）が生じています。中学校でも教科担任が足りず、市の予算で非常勤講師を配置して対応しています。こうした中で「数年後に検討」と先送りすれば、その間に子どもたちは成長し、教育の質が十分に確保できないまま卒業してしまいます。できるだけ早く課題を解決し、質の高い教育環境を整える必要があると考えています。

(6) 6・3 制の検証と小中一貫教育について

◆参加者 G

- ・現在の 6・3 制について十分な総括がされないまま、小中一貫教育への移行が議論されているのではないのでしょうか。
- ・また「人数が多ければ良い」という説明がされがちですが、教育は人数の問題だけではないと思います。
- ・「中 1 ギャップ」については、国立教育政策研究所の調査で、小学校高学年の段階から不安や問題が始まっていることが示されています。こうした研究や検証を踏まえずに統合を進めるのは拙速だと感じます。ぜひ検討プロセスを公開して、納得できる形で進めてほしいと思います。

◇市教委

- ・本市では過去 4 年間、「子どもの学びの課題検討会議」や「小中学校適正規模検討審議会」でテーマ別に議論を重ねてきました。これらの議事録はすべて公開しています。
- ・「中 1 ギャップ」についても、研究結果と同様、小学校時代から不安を抱える児童が多いことを認識しています。だからこそ小中の連携を強め、環境の変化に対応できるようにしたいと考えています。
- ・多様な価値観をどう育てるかについても、教育の本質的な議題として引き続き検討してまいります。

(7) 少人数の良さと課題について

◆参加者 S

- ・これまで担任時代には 1 学年 2～4 学級を、教頭時代には単学級の学校を経験しました。その経験から、小中連携の重要性を強く感じました。

・教職員の立場からは、単学級で1人担任だと授業準備や判断を1人で抱え込むことになり、公務分掌も重なり非常に負担が大きいと感じます。複数学級がある場合と比べると、休暇も取りづらく、若手にとっては厳しい環境です。

もちろん少人数校の温かさや良さもあります。しかし、教育の質を保障するためには適正規模の学校の方が望ましい面もあると考えています。

◇市教委

・少人数校の良さを大切にしながらも、教職員や児童への負担の現実を踏まえ、適正規模の学校づくりを目指す必要があると再認識いたしました。地域の声と現場の声を合わせながら検討を進めてまいります。

(8) 災害時の避難場所としての学校の役割について

◆参加者 H

・統合後の校舎は既存のものを利用するとの説明がありましたが、学校は地域の避難所でもあります。もし統合するのであれば、新校舎を安全な場所に建てて、災害時にも安心できる避難場所にすべきではないでしょうか。魅力的な施設を整えるなら、新築も検討してほしいです。

◇市教委

・第一学園については時間が限られているため、既存の高甫小学校・東中の校舎を改修・増築して活用する予定です。両校とも浸水想定区域には入っていないため、安全性は確保できていると考えています。

・第二学園については、新校舎を建設する計画です。

・第三学園以降については10年以上先の話となるため、その時点で事業性や安全性を踏まえて検討したいと考えています。

(9) 多様な価値観・須坂らしさについて

◆参加者 T

・これまで須坂市内外で小中学校に勤め、子どもにとっては予測不能な時代を生き抜く力を育てることが必要だと強く感じています。

・少人数校の現場では、子どもたちが顔を見ただけで相手の気持ちを読み取りすぎたり、世話を焼きすぎて自立の機会を失うことがありました。逆に人数が多い集団の中では、自分の意見を主張したり多様な人と関わる経験ができます。

・単学級では教員も一人で学年を抱えるため、負担が大きくなります。適正規模の中で複数担任が協力することが教育の質につながると思います。

・義務教育9年間を通して、小学校と中学校が一体となり、子どもの成長を継続的に支える教育を目指したいと考えています。

◆参加者 I

・多様な価値観といっても、ただ人数が多ければ良いというものではありません。地域にはそれぞれの特色があり、須坂らしさがあるはずです。それを大事にしないと、ただ統合のための統合になってしまうのではないのでしょうか。

・市教委の方針が上から提示され、住民が十分に意見を交わす場が少ないと感じます。もっと自由に、地域住民が主体的に議論できる場を設けていただきたいです。

◇市教委

・学園構想によって須坂らしさを失うのではなく、新しい学校づくりの中でどう須坂らしさを生かすか、地域との連携で形にしていくことを目指しています。

・住民の皆さまとの議論の場については今後も開催していきます。

(10) 地域活動に関する懸念について

◆参加者 J

・市民の会として講演会を開いたことがあります。その際、和光大学の山本先生が「地域に学校があることの価値は大きい」と指摘されていました。地域と学校を切り離してしまうと、誰のものでもない学校になり、地域の衰退につながる可能性があります。

・小学校は子どもの生活圏であり、地域の組織（子ども会・育成会・防災・見守りなど）も学校単位で動いています。だからこそ地域の拠点である学校を残すことが大切だと思います。

◇市教委

・地域に学校があることの価値は重く受け止めています。ただ、地域の衰退をすべて学校の有無に帰することはできないとも考えています。地域づくりは学校と地域が一緒になって進めていくものだと思います。その上で、学校の在り方についても皆さまと議論しながら進めてまいります。

◆参加者 K

・私は説明会や検討会議の議事録を読みました。その中で気になったのは、現場の先生方の発言がとても少ないことです。市教委の方針に沿った発言しかできないように見えます。現場の先生の本音を自由に言えない状況があるのではないのでしょうか。

・学園構想の是非を議論するよりも、進んでしまっているように思えます。これでは「住民参加」とは言えないのではないのでしょうか。表現の自由、意見を述べる自由が制約されているのではないかと強い懸念を持っています。

◇市教委

・現場の先生方が自由に意見を述べられないということは決してありません。実際に、検討会議や協議会でもさまざまな意見が出されています。

・学園構想案は市が一方的に決めたものではなく、それまでの4年間で、学校や地域代表の方と共に議論を重ねてきた経過があります。

(11) 多様な価値観について

◆参加者 L

・多様な価値観をどう捉えるかが曖昧に感じます。たとえば、今の少人数校の中でも十分に個性の違う子がいて、多様性を学んでいると思います。人数を増やすことが多様な価値観につながるとは限らないのではないのでしょうか。地域性や学校ごとの特色の中で、多様な体験や価値観を育むことが大切ではないかと感じます。

◇市教委

・少人数の中でも多様な個性があり、それを尊重する教育は大事です。私たちが言う「多様な価値観」には、そうした個性の違いに加えて、規模が大きくなることで出会う人の幅が広がる、という意味合いも含んでいます。地域の特色を大事にしながら、多様性を育む教育をどう作るか、これは引き続き検討していきます。

◆相森中学校長

・本校では昨年度、全校生徒を対象にスクールミーティングを実施しました。テーマは「もし小学校と一緒にになったら、どんな学校が良いか」というものです。生徒からは、「校舎が広くてきれいだといい」「部活動がもっと選べるといい」「小学生と一緒に行事をやりたい」といった前向きな意見が多く出ました。もちろん「通学が大変になるのでは」という不安の声もありましたが、総じて新しい学校への期待が感じられました。

・現場の教職員としては、児童・生徒の声を大切にしながら、安心して学べる環境づくりを進めていきたいと考えています。

◇市教委

・ご紹介いただいたように、スクールミーティングでは子どもたちの率直な意見を伺っています。今後も各学校でこうした対話の機会を設け、子どもたちの声を計画に反映していきたいと思えます。

(12) 将来人口と統合時期について

◆参加者 M

・将来的に人口が減ることは理解しています。ただ、第三・第四学園の統合は10年以上先だと説明されました。その時点で本当に児童数が減っているのか、予測通りかどうかは分かりません。予測が外れることもあります。今の時点で10年後のことまで決めてしまう必要があるのでしょうか。もっと柔軟に対応できるようにしておくべきだと思います。

◇市教委

・東中学校や豊丘小学校の児童数減少が深刻であり、すでに複式学級や教員不足が生じているため、早期に取り組む必要があります。

・第三・第四学園については、10年以上先の話です。そのため、具体的な設計や建設計画は現時点では定めていません。あきまで基本方針として方向性を示しつつ、詳細は将来の状況を踏まえて柔軟に検討する予定です。

(13) 校名・制服・通学路・放課後の居場所等について

◆参加者 N

・新しい学校の名前はどのようなのでしょうか。制服や校歌なども一から変わるのか気になります。地域に根付いた文化がなくなるのではないのでしょうか。

◇市教委

・学校の名称については、今後地域や子どもたちの意見を伺いながら決定することになります。
・制服や校歌なども、地域との協議の中で決めていく予定です。地域の歴史や文化を大事にしながら、新しい学校文化を作っていきたいと考えています。

◆参加者 O

・子どもの通学路について非常に心配しています。統合後は距離が延び、さらに危険な道を通らなければならないのではないかと不安です。
・スクールバスを運行するとのことですが、バス停までの道のりで事故が起きる可能性もあります。「スクールバスを走らせれば大丈夫」という考え方では不安は解消できません。

◇市教委

・通学路については、現在も毎年「通学路安全点検」を地域の皆様や警察と一緒にしています。統合に伴い通学路が変わる場合には、事前に必ず安全点検を行い、危険箇所の改善を図ります。
・スクールバスについても、バス停の場所をどう設定するかが重要です。地域の皆様のご意見をいただきながら、安全で安心できる形に整えたいと考えています。

◆参加者 P

・統合すると、放課後の子どもの居場所がどうなるのかが気になります。また、地域の子どもが地域で遊ぶ姿が減ってしまうと、地域のつながりも失われる気がします。

◇市教委

・放課後児童クラブについては、できるだけ地域ごとに残していく方針です。
・第一・第二学園では、距離が近いため現在のクラブを活用できると考えています。第三・第四学園については10年以上先の話なので、その時点での児童数や需要を見ながら柔軟に検討したいと思います。
・地域のつながりについても大切にしたいと考えていますので、地域での活動や見守りの仕組みが維持できるよう工夫してまいります。

(14) 学園構想の進め方、財政面について

◆参加者 Q

・もっと住民と一緒に時間をかけて議論すべきです。地域の学校は地域の宝であり、なくしてしまったら元には戻りません。どうか、性急に決めるのではなく、子どもや地域の未来をじっくり考えて進めてほしいと思います。

◇市教委

・私たちも地域の学校が大切な存在であることは十分理解しています。しかし、すでに児童数の減少が深刻で、教育の質を確保することが難しくなっている現実があります。

・時間をかけることによって、今の子どもたちが十分な教育を受けられないまま卒業してしまう、そのことを何より心配しています。

・子どもの成長を第一に考え、必要な決定はしていきたいと考えています。」

◆参加者 R

・義務教育学校の具体的な教育課程がどうなるのか、教職員の配置はどうなるのか、今の説明だけでははっきりしません。

・財政的に本当にやっていけるのかも心配です。新しい校舎を建てると言われても、市の財政が厳しいのではないのでしょうか。

◇市教委

・義務教育学校の教育課程については、国の学習指導要領に基づきますが、小中 9 年間を見通してカリキュラムを編成できるのが特徴です。教職員の配置についても、国の基準に基づきながら、市独自に必要な加配を行うことを検討しています。

・財政面については、学校統合によって教職員数や施設管理費が効率化される面があります。その分を新しい教育環境の整備に充てることができます。もちろん市の財政全体を見ながら進めますが、持続可能な形で実現可能と考えています。

閉会